

Vol.19

2023.9

# ND

キャンパス通信

わたしらしく、誇らしく

*Be Notre Dame, Be Myself*



京都ノートルダム女子大学  
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

# ND VOICE

Webサイトでも  
「ND VOICE」配信中



ND VOICEでは、毎号注目のND生をご紹介します。

近年注目されている「メタバース」

京都ノートルダム女子大学でも、新技術に挑戦する学生が活躍しています！

メタバースチーム「MAGIE ESPOIR」で活動する皆さんにお話を伺いました。

## メタバースイベント開催

### 未知から挑むメタバース

#### 「会える」をキーワードに広がる可能性

生活環境学科 3年次生 T.W.さん・こども教育学科 3年次生 C.T.さん

#### 初めてのことだらけの

#### メタバース

私たちは2022年度に発足したメタバースチーム「MAGIE ESPOIR(マジеспoワール)」です。メタバースとは、インターネット上に構築された仮想空間のこと。最近ではよく取り沙汰されるメタバースですが、どうぶつの森やMinecraftなどのゲームでおなじみのもので、知らず知らずのうちに皆さんも一度は触れたことがあるかもしれません。

発足のきっかけは社会情報課程の濱中先生からメタバースを用いたイベントをしてみないかと声をかけていただいたこと。それまでは「メタバース」という言葉は何となく聞いたことがあっても、全く未知の分野でした。しかし私たちは高校3年生のころからZoomを使ったオンライン授業があり、その不自由さや特有のしんどさを何度も感じてきました。その経験を活かすことができるのではないかと考え、参加を決意しました。

これまで3回イベントを開催しました。イベントの内容はその時々によってさまざまなテーマを設定しています。第1回のイベントは、メタバース空間には入れたもの、お互いの声が聞こえず、あえなくZoomに移動……。失敗もありましたが、反省を生かして挑んだ2回目のイベントは、先輩と後輩の縦のつながりに注目し、履修や就活、ゼミなどについて自由に話すというテーマで開催しました。学生同士のつながりが薄くなっていた時期に、聞きたかったことを聞くことができた、たくさんの在学中に喜んでいただけました。

#### 会うことができる

#### 今だからこそ広がる可能性

今は対面授業も復活し、実際に会ってコミュニケーションを取れることが一層貴重だと感じます。これまでは学内向けのイベントが多かったのですが、これからは学外向けのイベントにも力を入れていく予定です。メタバースの強みは、離れているところからもアクセスができ、自分の顔をカメラに映すのではなく、アバターを使用して気軽にコミュニケーションをとれることです。この強みを活かして、今後はオープンキャンパスでのイベントや、地元の左京ふれあいまつりへの出展、高校での出張模擬授業などさまざまなイベント・企画を予定しています。

これまでは既存のメタバース空間をそのまま活用してイベントを運営することが主でした。しかしメタバースのサービスを展開する企業の方々からお声がけをいただくなかで、私たちの活動や守備範囲をさらに広げるために自らオリジナルのプロダクト制作に挑戦していくべきではないかと考えています。ゆくゆくは、本学キャンパスをメタバース上に作り、本学に直接来られない方に大学の雰囲気伝えることも可能かもしれません。これからもメタバースを軸にチャレンジを続けていきたいです。



外部開催のイベント「ARVR・メタバース・web3セミナー・展示・体験会」にも出展



※イベントで利用したメタバース空間



T.W.さんのアバター

T.W.さん

C.T.さんのアバター

C.T.さん

H.O.さんのアバター

H.O.さん

N.M.さんのアバター

N.M.さん

## P-1グランプリ

### メタバース×アイデアで地域創生を叶える ビジネスアイデアコンテストで入賞

社会情報課程 1年次生 H.O.さん・N.M.さん

#### 悔しさが応募のきっかけに、 わくわくするアイデアを考えよう

「P-1グランプリ」は、地方創生につながる新規ビジネスを企画する、ビジネスアイデアコンテストです。兵庫県洲本市の地方創生を叶えることを目的に、Web3.0を使ったビジネスを考えることが課題でした。私たちはメタバース内のまち歩き体験をお金(NFT\*)に換えることができる「まち歩きでお宝ゲット!」をテーマに発表し、決勝に残った5組のうち2位に入賞することができました。

P-1グランプリに参加するきっかけになったのは、濱中先生との日常会話。地方創生に関心があると言いながら、いざ自分の出身地の魅力を聞かれた際に答えることができず、その日の夜に調べて資料にまとめて先生に送りました。それを見た先生からの紹介で、P-1グランプリへの出場を決めました。

企画の舞台となった洲本市は温泉街もあり、観光資源が豊富ですが、観光客が少ないことが課題でした。MAGIE ESPOIRの活動の中でメタバースを扱っていたこともあり、メタバースの活用を中心に据え、どのように地域を活性化できるのか模索しました。最終的な提案は、メタバース上に再現した洲本市の街並みをゲストに探索してもらい、実際に洲本市で使用可能なクーポンを獲得できるというプラン。また、このメタバース体験自体もNFT化することができるプランにしました。

#### アイデアを形にすること、 やりきること

このプランを考える中で、たくさんの試行錯誤がありました。ビジネスモデルや地域の魅力・イベントの周知方法、提案のネーミングに至るまで、どれも考え抜いたものです。特に印象に残っているのは、発表本番前日にプレゼンテーション内容を大幅に見直ししたこと。それまでもサークルの先輩方や先生からアドバイスをいただいて練習していましたが、提案内容にふさわしい、面白いプレゼンテーションにするため、急速二人でコントをすることになりました。発表資料も大幅見直しして、ギリギリまで準備した甲斐もあり、良い結果に繋がったと思います。



プレゼンは好評!

今の目標は、とにかく何かしら形に残すこと。私たちが提案したのはビジネスプランで、まだ形のないもの。学生という立場もあり、提案したすべては難しくとも、何か一部でも実際に作って具体的なものにできれば、もっと可能性が広がると考えています。洲本市からもこの取り組みについて具体的に話をしたいと声をかけてもらっています。今後の洲本市とのプロジェクトにも注目ください!

\*NFT…偽造不可な鑑定書・所有証明書付きのデジタルデータのことを指し、暗号資産(仮想通貨)と同じく、ブロックチェーン上で発行・取引されるもの。非代替性トークンとも呼ぶ。

# “ 実社会につながる「生きた学び」を 2024年度に向けて 学部・教育課程を改革 ”

本学が2023年4月に社会情報課程を開設した理由は、新型コロナウイルスの感染拡大を機に社会全体のデジタル化・DXが加速し、それらに資する人材育成が大学に求められるようになったことにあります。

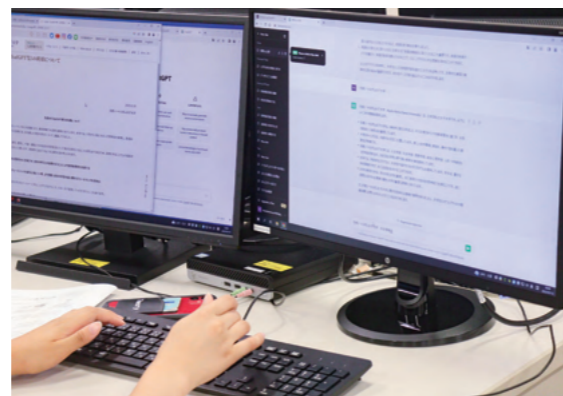
幸いにも本学は1992年から約30年続く情報教育の素地があり、他大学に比べ比較的早くに開設することができました。

2024年度には、社会情報課程にて高等学校教諭一種免許状(情報)が取得可能※になり、さらに現代人間学部の既存3学科のリニューアルを図ります。

※ただし、文部科学省の審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

## AI・情報社会に 대응する 新たな教職課程を開設

2023年に新設した社会情報課程において、高等学校教科「情報」に関する教職課程の設置を予定しています。本学の社会情報課程の特長は、より生活に密着した情報の科目を配置していること。これからのAI・情報社会において必須の力となる情報スキル・リテラシーを、より身近な視点から育むことができる情報科女性教員の養成を目指しています。情報科教員の女性の割合は低く、質の高い情報科教員の養成は喫緊の課題です。生活に密着した情報の活用について、次の世代に伝えられる教員を育てることで、学校現場の課題解決につながれると考えています。



PROFILE

学長補佐  
こども教育学科  
社会情報課程(兼)  
神月 紀輔 教授



滋賀大学大学院教育学研究科情報教育専修修了、専門：教育工学・情報教育、近著「新・教育心理学」(教育情報出版・共著)

## 卒業後のキャリアを意識した 現代人間学部リニューアル

2024年度には、現代人間学部3学科のリニューアルを予定しています。各学科に共通しているのは、大学での学びが社会にどうつながるのか具体的にイメージできることです。生活環境学科では専門領域に特化した職業体験やコンテストへの参加など、実社会に活かせる学びを提供します。また、心理学科では従来の2コースと関連付けながら多様な関心に合わせた5つのモデルを示し、学びとキャリアがつながるように意識しています。こども教育学科においても、実習をはじめとした現場でのリアルな体験を重視しており、学生たちに将来どんな先生になりたいか深く考える機会を用意しています。本学の特長である学生と教員の距離の近さを活かし、学生のニーズをくみ取りながら、社会につながる学びを提供していく考えです。

## 社会に直結する学びを提供し 学生に誇りを持ってもらいたい

今回の教職課程開設や学部リニューアルに共通するのは、本学で学ぶ学生が大学での学びを将来の仕事や生き方に活かしてほしいという切実な願いです。今でも、クラブサークルやゼミでの社会貢献などにおいて、学生たちはひたむきに取り組み、「大学」という枠の中では一定の成果を上げているように思います。一方で、社会に出る段階で消極的になったり、自信がなかったりする姿も見てきました。今回の社会情報課程や現代人間学部の改革によって、実社会につながる「生きた学び」を深められると考えています。学生の皆さんには、本学での学びに誇りを持って取り組んでもらい、さらに自信を持って社会に飛び立ってほしいです。そのために、教職員は精一杯の援助をしていきたいと覚悟しています。これからの学生の活躍にぜひご期待ください。

2024年度からスタート!  
現代人間学部  
リニューアルの特長



### 生活環境学科

暮らしのすべてを多角的に学ぶ

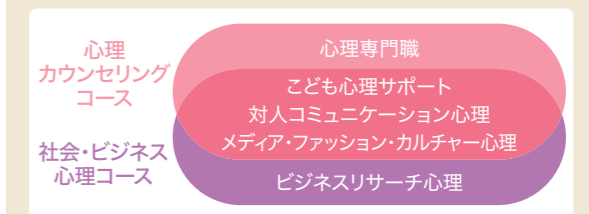
1年次に6つの分野を幅広く知ったうえで2年次からプレインターンシップやコンテストに参加。実践的に学びながら専門性を高めます。

- 衣**
  - ファッションが好き
  - パーソナルカラーを分析
  - その人らしい服装の提案 など
- 食**
  - お菓子作り・料理が好き
  - 料理をSNSで発信
  - 食育への関心 など
- 住**
  - インテリアや家具が好き
  - 心地よい空間づくり
  - マイホームへの関心 など
- 家族**
  - 家族が抱える問題への関心
  - 男女平等・LGBT+を知る
  - これからの家族の形を考える など
- 福祉**
  - 社会で困っている人を助けたい
  - 高齢者も快適な社会づくり
  - 障がいを持つ人との共同作業 など
- 生活経営 経済**
  - これから必要な金額を知る
  - 円安や円高になると、どのような影響があるの?
  - 家族の形とお金の関係 など

### 心理学科

心理学×キャリアの5つの学びモデルから選べる

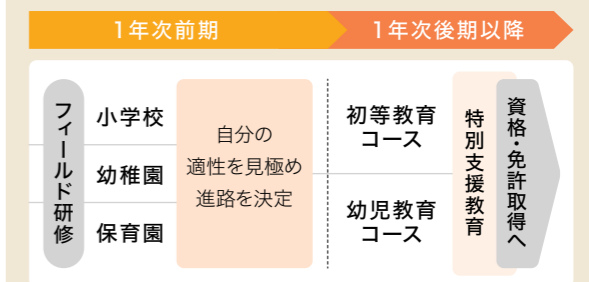
将来の夢や好きなものを形にしていける5モデル。心理学の体験的な学びを通して、社会で生きる力と専門性を身につけます。



### こども教育学科

1年次前期にすべての教育機関について学び、自身の進路を決定

1年次前期に小学校・幼稚園・保育園でフィールド研修を体験することで、自分に合ったコースを選ぶことができます。初等教育コース・幼児教育コースのどちらを選択しても、特別支援に関する教育は受けることができます。



01 巻頭特集  
ND VOICE  
メタバースチーム  
「MAGIE ESPOIR」

03 TOPIC  
2024年度に向けて  
学部・教育課程を改革  
学長補佐  
こども教育学科 社会情報課程(兼)  
神月 紀輔 教授

05 学生INTERVIEW  
小児医療ボランティア(実践講座)  
こども教育学科 特別支援教育ゼミ  
英語英文学科 上田 桜子さん  
国際日本文化学科 松本 しのぶさん

07 STUDY ABROAD  
留学体験記

09 研究者インタビュー  
英語英文学科 喜多 容子 准教授  
国際日本文化学科 岩崎 れい 教授

10 NDと社会

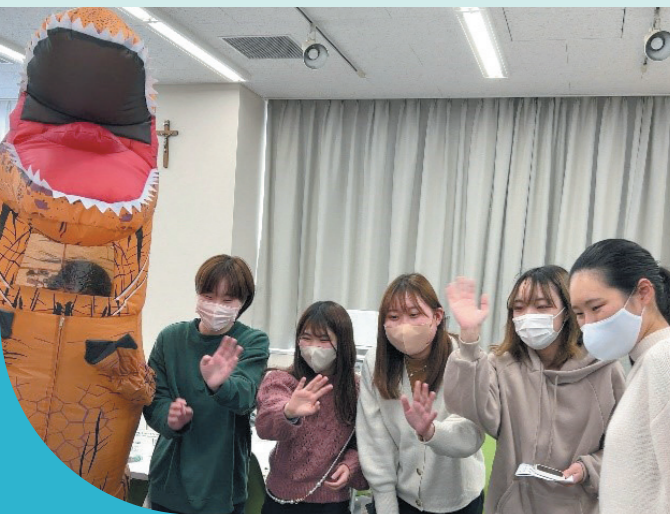
11 先生たちに聞いてみた  
12 NDの本  
13 Events Diary  
15 NEWS  
17 INFORMATION  
18 SCHEDULE

# 学生 INTERVIEW

本学では、さまざまな活動で学生が活躍しています。  
ゼミや授業での活動から個人での活動まで、幅広くご紹介します。

病気で学校に行けない子どもたちのために  
楽しく学べる企画を実施

小児医療ボランティア(実践講座)



前年に受講した「病児の発達と支援」の中で、病気により学校に行けない子どもがいること、その苦しさを知り、小児医療ボランティアに参加しました。このボランティアは京都府立医科大学と院内学級である京都市桃陽総合支援学校と連携し、入院中の子どもたちに向けて、病気の状態や心身の成長にあわせて遊びや学習支援を行うものです。直接訪問できない中、見て楽しい・作って楽しい理科の実験や、大学の施設を利用した謎解き探索ゲームを企画し、子どもたちと一緒に楽しく学ぶことが出来ました。この経験を活かし、今後も小児医療ボランティアの活動に励みたいと考えています。



心理学科 3年次生  
H.N.さん

**Q** コロナ禍で工夫したことを教えて！  
**A** 病院に行けなかったため、オンラインでも楽しめる企画を考えました。制作キットを用意して、事前に病院に送付するなど、手探りでしたが様々な工夫を凝らしました。

**Q** やりがいを感じた瞬間は？  
**A** 準備は大変だったのですが、Zoom越しの子どもたちの喜んだ顔や振り返りシートを通して、とても楽しんで貰えたことが伝わってきて本当に嬉しかったです。

フードロステーマに、キッチンカーを運営しています。きっかけは、中華料理店でアルバイトをしていたときに高級食材が大量に廃棄されている現状を知ったこと。お客様に美味しく食べて頂くと同時に、フードロスについて考えてもらえればと思い、生産者様や直売所様からB品を頂き、商業施設などで月に1回ほど調理・販売しています。フードロスの実態を学生として社会に発信するとともに、生産者さんの廃棄コストやストレスを減らすことができます。社会の厳しさ、お金を生み出す難しさ、思いを伝える難しさなど、大変なことも多いですが、学生である今しかできないことに真剣に取り組んでいます！



訳あり食材で作る美味しい料理が  
フードロス解決への第一歩に

英語英文学科 4年次生  
S.U.さん



**Q** どのようにキッチンカーを運営しているの？  
**A** 農家さんのキッチンカーにご一緒させていただくこともあります。最近は祇園祭や本学のオープンキャンパスに出店しています。見かけられた際は是非お立ち寄りください ^^

**Q** 読者へのメッセージをどうぞ  
**A** 現在は私一人で運営しているこのキッチンカーを、本学で継承したいと考えています。何かに挑戦してみたい方、賛同して下さる方、ご興味がある方は是非！



学会発表で得た学びや探求心を  
特別支援教育の現場へ繋げたい

こども教育学科  
特別支援教育ゼミ

2023年3月に本学で「日本教育情報学会特別支援教育AT研究会」が開催されました。全国から特別支援教育に関心のある教員や学生が集まり、支援技術(AT)やICTを活用した教育実践の研究について交流を行いました。2年次生の時に先輩方の発表を見て自分もやりたいと思いました。また、現職の先生や、他大学の学生から様々なアドバイスをいただき卒論に活かしていけたらと考え、今回の研究発表に参加しました。資料の準備やプレゼンの練習だけでなく、前日からの準備や当日の片付けまで、とても充実していました。他の学生や先生方の研究内容ポスターや発表も拝見し、さらに興味を持ったことや、もう少し勉強してみたいと感じたことも出てきました。今回の学会を終えて、新たな視点から卒論について考えるヒントをいただくことができました。



こども教育学科 4年次生  
A.Y.さん

**Q** 当日、発表以外にしたことは？  
**A** 当日は受付や入口付近で誘導を行ったり、学会後は来てくださった学生や先生方を見送り、会場の片付けまで行いました。

**Q** 将来やりたいことはありますか？  
**A** この学会で学んだことを活かし、教育現場で役立てられるよう特別支援教育に関する知識をさらに深めていきたいです。

私は中学・高校で茶道部に所属しており、大学でも裏千家茶道部に入学しました。3年次生で「裏千家学生茶道研究会(通称:裏研)」の評議員となり、その裏研で毎年開催されていた「ひな祭り茶会」の実行委員長に任命されました。同じ茶道部で評議員となった同級生と、他大学の評議員と一緒に準備を進め、2023年2月28日の開催当日は京都市内の幼稚園児を招き、雛人形の見学と茶席でおもてなしをしました。業<sup>まよ</sup>跡の方から貴重なお道具の扱いや所作を厳しく指導いただき、茶道を学ぶ者として貴重な経験ができました。また、企画の代表を担えた事は、私に大きな成長をもたらしてくれました。



**Q** 裏千家学生茶道研究会について教えて！  
**A** 裏千家学生茶道研究会は昭和40年に第15代鵬雲斎大宗匠(当時の御家元)の呼びかけにより発足し、現在は本学を含めた関西の19大学の茶道部が加盟しています。

**Q** 裏千家学生茶道研究会の普段の活動は？  
**A** 茶道具職人の方々のご協力のもと、加盟大学の茶道部の方向けに「茶杓作り体験」や「和菓子手作り体験」などの体験を企画・運営しています。

園児と共に学ぶことで新たな発見  
3年ぶりのひな祭り茶会を開催

国際日本文化学科 4年次生  
S.M.さん

### 語学研修で磨いた英語で日本の魅力を発信したい

海外研修

制度 アメリカ英語研修 留学先 アメリカ ハワイ大学 期間 2023年3月5日~26日

国際日本文化学科 2年次生 A.O.さん

京都ではよく海外からの観光客を見かけます。日本に来られた観光客に対して、英語で日本の魅力を伝えられるようになりたいと思い、語学研修を希望しました。研修先のハワイは自然豊かなきれいな街で、温かい人が多く、楽しく英語を学ぶことが出来ました。ハワイに着いて最初の頃は、現地の人の英語が全く分からず、伝えるの

も精一杯でした。現地で過ごす中でリスニング力が向上し、段々と英語が聞き取れるようになり、3週間の滞在で日常会話ができるほどにまで成長しました。



2022年2月より少しずつ再開した海外留学。2022年度は22名の学生が海外に飛び立ちました。その中からグローバル英語コース留学制度ならびに海外インターンシップ、アメリカ語学研修から帰国した学生たちに自分たちの留学生活について報告してもらいました。



海外インターンシップ

### 試行錯誤で近づく先生になる夢

制度 海外インターンシップB 留学先 オーストラリア ブリスベン 期間 2023年2月~2023年3月

英語英文学科 3年次生 Y.N.さん

ただ英語を学びに行くのではなく、自身の英語スキルが現地でのどのくらい役に立つのか試したいと思い、海外インターンシップに参加しました。ブリスベンは南半球にあるため、季節は日本とは反対でしたが、とても過ごしやすい綺麗な街でした。教員を目指しているため現地の小学校をインターンシップ先に選択。先生のサポートをする中で生徒たちに教えることの楽しさを実感出来ま

した。英語での授業は言葉が通じないことや思うようにならないこともありましたが、担当の先生と相談しながら試行錯誤し、回数を重ねる度により良い授業を行えました。



留学

### 挑戦と失敗を繰り返して、成長できる

制度 グローバル英語コース留学 留学先 イギリス リーズ大学 期間 2022年4月~2023年3月

英語英文学科 4年次生 H.N.さん



入学前から留学を希望しており、留学必修のコースと充実したサポート奨学金に惹かれ、本学に入学しました。留学したイギリスは多様性の象徴のような国です。街を歩けば、まるで複数のラジオが流れているかのように様々な言語を耳にしました。留学先のリーズ大学では、多彩なテーマについてディスカッションやプレゼン発表に参加。

実践的な英語の勉強をすることが出来ました。特に仲間と共にドキュメンタリーやショートフィルムを作る授業は、第二言語でコミュニケーションをとることの難しさを体感できた貴重な経験でした。留学が始まってからは、慣れない環境下での一人暮らし、言語の壁、幅広い価値観と個性との出会いなど、失敗と挑戦を繰り返しながらも多くの新しい経験を通して、自分自身の視野を広げることができました。

留学

### 完璧じゃなくていい、伝える英語を話せるように

制度 グローバル英語コース留学 留学先 アメリカ カリフォルニア大学デイビス校 期間 2022年3月~2022年9月

英語英文学科 4年次生 H.M.さん

留学先のデイビスはアメリカの西側に位置する、自然が多い穏やかな場所です。自習室で勉強している時、現地の人がドーナツをくれたり、キャンプに誘ってくれたりと留学生にも優しい環境でした。留学先で実感したのは、100%正確な英語は求められていないということ。急ぐ場面で意思疎通が難しい部分をアプリで翻訳しようとしたとき、「あなたの英語で理解したいからそれを使わず伝えて」と言ってくれました。間違えることは当たり前で、間違っていないでも自信を持って話すこ

とが大切だと学びました。最初は思うように話せなかったり、相手の話を繰り返し聞いてしまったりと孤独に感じることもありましたが、しかし現地の人とコミュニケーションを取るために、動物保護施設のボランティアに挑戦するなど、行動力と責任感が向上したと感じます。



留学

### 多文化の「るつぽ」トロントで学ぶ英語コミュニケーション

制度 グローバル英語コース留学 留学先 カナダ トロント大学 期間 2022年9月~2023年3月

英語英文学科 3年次生 M.W.さん



高校生のころから留学したいと思っていたため、留学プログラムが充実している本学に入学しました。留学先のトロントは多文化社会のためカナダの文化だけでなく他の国の文化を学ぶ機会も多かったです。クラスメイトの国の郷土料理をクラス全員で食べに行くこともありま

した。1ヶ月単位でクラス替えがあり、どのクラスでも最後の課題はチームごとにビデオを作って発表するというものでした。英語でのコミュニケーションなので上手く伝わらないこともありましたが、間違いから新しいフレーズや語彙を学ぶことができたので、間違えることを恐れなくなりました。チームでどんなビデオにするかを決め、編集までを行ったのでクラスメイトとの仲も深まり、大きな達成感を感じました。

### 現地の人の温かさから人に頼ることの大切さを実感

海外インターンシップ

制度 海外インターンシップB 留学先 オーストラリア ブリスベン 期間 2023年2月~2023年3月

英語英文学科 4年次生 S.A.さん



オーストラリアのブリスベンという気候も人も温かな地域の中高一貫校で日本語教師のアシスタントとして仕事体験に参加しました。生徒たちの意欲の高さと、生徒主体の授業スタイルに驚きました。海外で

のコミュニケーションには苦労しましたが、現地の人たちに助けをもらいながら、楽しく学ぶことが出来ました。分からないことをそのままにするのではなく、素直に人に助けをもらうことの大切さに気付いたことが一番の成長です。

# 研究者インタビュー

本学の教員は教育研究の成果を  
国外の学会でも発表しています。  
海外で研究発表を行った2名の  
教員をご紹介します。

初等英語指導法と指導スキルの向上  
——国際学会 CamTESOL Conference

## 初等英語教育における指導法や教材を開発 未来の英語教育に携わる人材をサポートしていきたい

ブノベン カンボジア工科大学 2023年2月17日～19日

今回参加したCamTESOLは、カンボジアで開催される国際的な英語教育の学会です。英語教育に関わる最新の教育方法、研究成果、教育実践について情報を共有する場となっています。今回は、初等英語指導法と指導スキルの向上に関する研究発表を行いました。この研究は、近年の初等英語教育導入を背景として浮上してきた喫緊の課題「初等英語教育の指導に携わる人材の育成と支援のための教材開発」に取



り組んだものです。これまでに培ってきた実践経験と学びを繋げ、自らの専門知識・技能を生かして研究できることにやりがいを感じています。学会では、世界中の研究者が英語教育の効果的な教授法に関する発表を行っており、とても刺激を受けました。そして、初等英語教育に携わる未来の教師や本学の学生が、外国語に関する専門的知識や実践的な指導スキルを習得するための支援に全力を注ぎたいと考えております。



喜多 容子 准教授  
英語英文学科

国際言語文化学部所属。アメリカシアトルパシフィック大学院修了(MA-TESOL)。中学校英語科教員、小・中外国語コーディネーター、鳴門教育大学講師を経て現職。専門は、英語教育学、異文化理解教育、ジェンダー教育。

## 探究学習における日本の学校図書館の取り組みに 諸外国からも関心の声が高まる

アイルランド・ダブリン 2022年7月23、26～29日

今回の年次大会では、学校図書館における学習支援に関する研究の一環として、共同研究者と合同で、日本の公立学校における探究学習に学校図書館がどのような役割を果たしているかについて報告しました。学校図書館による児童生徒の読書・学習支援のありかたを研究する中で、探究学習は学習支援との関係が特に深い部分です。研究発表では、各国の参加者、特に米国、カナダ、フランスからの参加者から強い興味



を持ってもらえました。学校図書館の機能は、児童生徒の主体的な学習を支える土台となるものであり、研究と図書館現場が結びついているだけでなく、学校教育や社会的ニーズの変化にも積極的に対応していくことが求められています。児童生徒が探究学習を進めていくうえで、学校図書館が多様な資料を準備することは重要な役割です。そのための資料選択の基準や方法についても研究を進めていきたいと考えています。



岩崎 れい 教授  
国際日本文化学科

国際言語文化学部所属。東京大学教育学部・同大学院教育学研究科で図書館情報学を専攻(教育学修士)。研究テーマは学校図書館・公共図書館における子どもへの読書・学習の支援。

探究学習における学校図書館の役割  
——IFLA WLIC2022(国際図書館連盟 第87回年次大会)

# NDと社会

本学は地域連携・産学連携をはじめとした社会貢献活動を行っています。  
今号は2023年度から新しくスタートしている取り組みをご紹介します。

## ▶ ふるさと納税を活用した「DXリカレント講座」を開講

本学は世界30ヶ国以上で教育を展開するノートルダム教育修道女会を母体としていることを背景に、30年以上前から世界標準の情報教育を推進してきました。2021年度に文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)」に関西の女子大で唯一採択され、2023年4月には『社会情報課程(学部相当)』を開講しています。

2022年度のふるさと納税で本学にいただいたご支援を活用し、この教育資源を市民の皆さまや社会人、地域企業の社員研修等で活用できるよう、『文系女子大学が提案するDXリカレント講座』を開講します。詳細は巻末のSCHEDULEページをご参照ください。



## ▶ 株式会社G-Placeとの産学連携事業「誰もが快適な生理を」

心理学科が株式会社G-Place(代表取締役社長 綾部英寿、所在地:京都府長岡京市)と連携し、2023年4月からフェムテック分野での新たな価値創造に取り組んでいます。この活動は、「誰もが快適な生理を」をテーマに、ノンポリマーナプキンの使用感や学内でのナプキン設置による学生の意識変化を調査・分析することにより、女子大学生の月経をめぐるウェルビーイングの向上および SDGs の実践につながる取り組みで、8月3日開催の『Femtech Japan/Femcare Japan 2023 in OSAKA』で調査の途中経過を報告しました。



## ▶ 京都府立南山城支援学校との連携活動: ユニバーサルデザイン学校図書館『ほんの森』プロジェクト

地域の方々も自由に利用し読書を楽しむことができ、地域と学校をつなぐ拠点となるような、地域に開かれた図書館『ほんの森』プロジェクトに、現代人間学部こども教育学科太田ゼミ・生活環境学科竹原ゼミの学生が参加しています。「思わずいきたくなるような図書館」をコンセプトに、京都府立南山城支援学校の該当施設内の配置図等の提案と、障害のある児童生徒や全ての人が楽しめるような教材・おもちゃ作り等を考えています。



## ▶ (株)MIYACOとの産学連携事業「モリンガゼミ」

生活環境学科の「健康と食ゼミ(加藤教授)」と「食生活デザインゼミ(藤原教授)」が協力する(株)MIYACOとの連携事業「モリンガゼミ」では、スーパーフードの「モリンガ」を使った商品開発に向けて提案と試作を行っています。7月時点で8種類の食品を試作しました。味や見た目を細かくチェックし、モリンガの配分や調理条件の微調整をして、レシピ作りも行っています。ND祭での出店も企画しており、モリンガを使ったお菓子とその他の製品を販売予定です。



## ND協働プロジェクト

生活環境学科 酒井ゼミ生が「就労継続支援B型・就労移行支援事業所飛鳥井ワークセンター(Harvesthome HOLYLAND)」と協働で行う学内での定期パン販売。同 三好ゼミ生、矢島ゼミ生と「障害者就労継続支援B型 パス」の職員・メンバーによるゆずソーダ販売も好評で、さらに2022

年度からは京都市北部障害者自立支援協議会に参加する14の事業所の商品販売もスタートしています。2023年度からは販売日に大学を開放し、地域住民の皆さまに購入いただけるようになりました。賑わう会場で、ぜひ多様な商品を手にとってみていただければ幸いです。

# 先生たちに聞いてみた

本学の先生たちに、研究について聞いてみました！今号は2023年4月に新しく本学に着任された3名の先生方に答えていただきました。

Nakamura Takahiro



仲倉 高広 講師  
心理学科

主に医療での心理臨床に従事。「HIVを抱えるクライアントとの心理臨床実践から—主にHIV陽性の同性愛男性との心理療法を中心に—」『心理臨床スーパーヴィジョン学(京都大学大学院教育学研究科臨床実践指導学講座紀要)』,15-21,2023年。

## 先生の研究分野は？

HIV陽性の同性愛男性への心理療法や臨床心理学的アセスメントを中心に医療の中での実践と援助について研究しています。またセクシュアリティを巡る心理臨床やスーパーヴィジョン学などにも関心を持っています。

## どうしてその研究に興味を持ったの？

90年代に行われたHIV陽性の同性愛男性への援助は、コンサルテーションやチーム医療が主であり、心理療法の研究が殆ど無かったことに疑問を感じたことがきっかけです。

## メッセージ

大学は志が同じ人とも、全く関心が違う人とも出会える場だと思います。そして**今までとは違った自分自身とも出会えるチャンス**です。学生のみなさんと先生方と連携しさまざまな取り組みができることを楽しみにしております。

Muto Shota



武藤 翔太 講師  
心理学科

専門は臨床心理学。臨床は精神科医療、研究は心理アセスメントとグループアプローチ。共編著者として2020年に『心理アセスメントの理論と実践』(岩崎学術出版社)を執筆。

## 先生の研究分野は？

統合型HTP法という、1枚の画用紙に家と木と人をいれた絵を描いてもらう心理検査の研究です。新たな解釈等をどのように伝えたら相手の役に立つのかを明らかにしてきました。

## どうしてその研究に興味を持ったの？

人それぞれ全く違う絵を描くことが面白くて、学部生の頃から研究を始めました。その後、**精神科臨床で実践を続けていく中で、現場で実用性のある研究をしたい**と思い、続けてきました。

## メッセージ

**心理学は「外」に出て、人との出会いを通してアップデートしていく学問**です。「わからない」ことを明らかにしたい人、学びを役立てたいと思う人はぜひ学んで下さい。私も新たな出会いを通して、臨床実践、研究、教育を深めていきたいと考えています。

Kitamura Mihoko



北村 美穂子 教授  
社会情報課程

沖電気工業(株)にて、長年、自然言語処理の研究・開発に従事し、在籍中に工学博士を取得。退職後は、Wolfram|Alphaの日本語化に携わる。2023年4月より社会情報課程特任教授に就任。

## 先生の研究分野は？

自然言語処理という我々が日常的に使う言葉をコンピュータで扱うための技術です。近年、AIの急速な進歩により、我々の仕事や社会が変化しつつあります。技術開発だけでなく、AIの活用の仕方や付き合い方も研究対象です。

## どうしてその研究に興味を持ったの？

元々、人間の知能に興味がありましたが、それを模倣する機械翻訳システムに魅せられたのがきっかけです。**言葉を操るコンピュータの研究に夢を感じました。**

## メッセージ

これからの社会は、一学生が続ける姿勢が人生を豊かにします。本来学びは楽しいものです。**学生と共に学びを楽しむ、そういう研究活動が理想**です。活発な議論、研究ができることを楽しみにしています。

# N Dの本

本学教員が発刊に関わった書籍、執筆した論文等を紹介します。

## Rodents and Their Role in Ecology, Medicine and Agriculture (Dr. Mohammad Manjur Shah編)

章タイトル: Dietary Habit-Induced Gynecologic Disorders in Young Female Students -Lessons From Rodent Experiments-

著者: Tomoko Fujiwara, Rieko Nakata, Masanori Ono, Yumi Adachi, Hiroaki Yoshikawa, Takashi Hosono, Hiroshi Fujiwara, Takiko Daikoku and Hitoshi Ando

出版社: IntechOpen 発行日: 2023年3月17日 (オンラインファースト)

現代女性の食生活に警鐘。婦人科系疾患を誘発する可能性

これまでの研究から「思春期食習慣誘導産婦人科疾患(ADHOGD)」という概念を見だし、この機序を解明するために動物実験を行いました。その結果、思春期の不適切な食習慣による空腹ストレスが時計遺伝子異常などを介して子宮機能に影響を与え、将来の妊孕性を脅かす可能性が示されました。

藤原智子 教授  
生活環境学科

Mohammad Manjur Shah博士が編集する書籍の1章を執筆しました。20数年に及ぶ疫学調査で得られたADHOGDという新しい概念を、概日リズムの側面から解析するためには動物実験が必要であり、有効かつ適切な実験モデルを用いて、この概念を支持するエビデンスを今もなお収集し続けています。

## 板書&展開例でよくわかる 主体的・対話的で深い学びでつくる 365日の全授業 中学校社会歴史的分野

編著: 梅津正美・山内敏男

出版社: 明治図書 発行: 2023年2月24日



今の時代の中学校社会科授業に求められる指導のバイブル

「指導と評価の一体化」のすべてが分かることを目標に、中学校社会科歴史的分野の全時間について、板書写真と展開例を示しました。また指導計画と評価規準、主体的・対話的で深い学びにつながる手立てを示すことで、中学校現場の先生方の日々の授業づくりをサポートしています。

大西慎也 准教授  
子ども教育学科

社会科教育を専門とする大学教員と小・中・高の教員が協力して執筆し、私は「近代の日本と世界(6)」(p.238-257)を担当しました。日々多忙で教材研究や授業づくりが困難になっている教育現場の実態を踏まえ、社会科授業のあるべき姿をさぐりながら各執筆が研究の成果を組み込んだ意欲作です。授業改善の一役を担えたいと思います。

## 幸福で充実した人生を送るための学び 理科でつくるウェルビーイング

著者: 塚田昭一・館英樹・辻健・鳴川哲也・山中健司・寺本貴啓・比樂憲一・森戸幹・水野安伸・木藤葵・松山明通・澤村慎一・渡辺浩幸・北條諭・森田和良・佐々木昭弘・富田瑞枝・佐藤真太郎・古脚聡・鷲見辰美・鈴木圭・坂本美緒・志田正訓・中村大輝  
出版社: 株式会社東洋館出版社 発行: 2023年3月31日



本来、学びは子どもの幸せ＝ウェルビーイングのためのもの

本書は、これまで問題解決を大切にしてきた理科授業にウェルビーイングの視点を取り入れることで、どのように子どもたちの良さや可能性を伸ばすことができるのかを、子供の姿から明らかにすることを目標に書かれた本です。将来、子供たちが幸福な人生を歩むための学びを促します。

佐藤真太郎 講師  
子ども教育学科

私は第3章の1「命の授業」にて、ウェルビーイングの視点から理科における防災・減災教育の授業実践を担当しました。これからの時代に求められる教育について検討することで、より実生活との関りが強い、新しい理科の姿を描くことができたと思います。

## NDの論文情報

● 朱 鳳 教授 国際日本文化学科  
『『致富新書』の翻訳考—原書との比較を中心に—』  
著者: 朱 鳳  
『日中語彙研究』(愛知大学中日大辞典編纂所, 2023)

● 太田 容次 准教授 子ども教育学科  
『知的障害のある子どものICT活用—自立と社会参加に向けた教育の充実のために—』  
著者: 太田 容次  
『学習情報研究7月号』 公益財団法人学習情報研究センター

● 佐藤 真太郎 講師 子ども教育学科  
『災害遺構を活用した被災地以外の児童に対する防災教育の導入—災害伝承を踏まえた小学校第3学年における模擬見学を事例として—』  
著者: 佐藤 真太郎  
『安全教育学研究, 2023 第22巻 第2号』13-21. (日本安全教育学会)

● 廣口 知世 講師 子ども教育学科  
『言語コミュニケーション能力を育て、主体的・協働的学びのカリキュラムをデザインするトピック 学習の試み—小学1年生の国語学習を核として—』  
著者: 山元 悦子・廣口 知世  
『福岡教育大学紀要 第1分冊、文科編 第72巻』(2023)

『小学1年生による課題追究をめざした探究的話し合いの様相』  
著者: 廣口 知世  
『国語科研究論集』(福岡教育大学編, 2023)

『「仮相の論理」を用いて「対象の論理」を解釈する読むことの学習指導—第一学年 文学的文章「ためぎの糸車」—』  
著者: 廣口 知世  
『学校教育 3月号 No.1267』(広島大学附属小学校学校教育研究会編, 2023)

## ガイドライン策定

● 佐藤 純 教授 生活環境学科  
『日本うつ病学会診療ガイドライン双極性障害(双極症)2023 第5章 社会心理的支援』  
著者: 宗 未来・酒井 佳永・佐藤 純・北川 信樹・中川 敦夫  
(日本うつ病学会, 2023)

# NDのイベントに密着 Events Diary

2023年3月～8月に実施した、学内の活動の一部をご紹介します。

## 研究プロジェクト発表会 2023

2023  
3.2

研究プロジェクト発表会2023を開催しました。この発表会は、京都ノートルダム女子大学研究助成の研究成果を学内外に発表するもので、今回は平野美保准教授、中里郁子准教授、高田佳孝講師の2021年度研究助成研究成果が発表されました(職名は2023年3月時点)。



## 第59回卒業式・第20回 学位授与式を挙りました

2023  
3.11

卒業式・学位授与式が執り行われ、卒業・修了生285名(学部生276名、大学院生9名)が本学伝統のキャップとガウンを身にまとい、式に臨みました。学科および研究科の代表者への証書の授与後、中村久美学長より卒業にあたっての式辞が述べられました。大塚喜直司様によるみことばの祭儀が行われ、参加者全員でこの佳き日を迎えられたことを感謝しました。



## カトリック教育センター 春の講演会

2023  
5.20

音楽学者で獨協大学外国語学部教授の木村佐千子氏をお迎えし、カトリック教育センター春の講演会を開催しました。「J.S.バッハのラテン語宗教音楽—《ミサ曲口短調》を中心に」と題し、実際に曲を聴きつつ、解説を聞く形式ですすめられました。約4年ぶりの全面対面形式で開催され、53名が参加しました。



## 社会情報課程主催 記念講演会

2023  
8.7

『「情報×〇〇学」でAI社会をしなやかに生き抜く新しい時代のデータサイエンス教育～社会情報課程開設記念・DXリカレント講座開講記念講演会～』を実施しました。当日は2部制で、生成系AI(ChatGPT等)の仕組みの解説や本学での取り組みについての講演のほか、具体的に情報教育で使っている教材や教育を紹介しました。この日は講演会に100名、体験コーナーに35名が参加しました。



3  
Mar.

4  
Apr.

5  
May

6  
June

7  
July

8  
Aug.

## 2022年度 学生表彰式を執り行いました

成績優秀者ならびに団体・個人活動が評価された学生、資格取得で優秀な成績をおさめた学生達が参加し、中村久美学長より賞状が授与されました。

成績  
優秀者

永島 侑季(英語英文学科)  
河野 有紗(国際日本文化学科)  
池内 葉月(福祉生活デザイン学科)  
田井 笙子(心理学科)  
今村 羽衣(こども教育学科)



資格関係  
表彰

社会福祉士: 藪田 朱里(福祉生活デザイン学科)  
精神保健福祉士: 松村 優希菜(福祉生活デザイン学科)  
保育士: 磯田 美咲(こども教育学科)  
フードスペシャリスト: 梁 凱欣(福祉生活デザイン学科)  
情報処理士: 永島 侑季(英語英文学科)



学長  
奨励賞  
(団体)

・ND祭実行委員会  
・第20回カトリック女子大学  
総合スポーツ大会選手団38名  
・左京区✳はなまちチーム  
・小児医療ボランティア実践講座

学長  
奨励賞  
(個人)

黒田 悠華(英語英文学科)



2023  
3.10

## 令和5年度 入学式を挙りました

2023  
4.3

令和5年度入学式が執り行われ、編入生を含む学部生208人、大学院生10人が入学しました。学長、理事長、ND育友会会長から祝辞が述べられ、新入生代表は「高校時代はコロナの影響で様々な活動制限を受けた。ここノートルダムで出会う人と共に多くのことを学び、人として成長できる4年間にしたい」と語りました。その後、ウィリアム神父様によりみことばの祭儀が行われ、祝福の言葉が贈られました。



## 公開講座「私立女子大学が 取り組む教員養成とその成果」

2023  
5.27

こども教育学科による公開講座を開催しました。京都市立小学校勤務の川林秀子教諭から教育現場の現状について情報提供いただき、教育制度に詳しい小林忍教育支援部長と、こども教育学科の神月教授を交え、子どもたちのための教育という視点で講演が行われました。この日はオンラインと対面合わせて72名が参加しました。







## 新入生を対象にフレッシュマンセミナー、クラブ体験を開催

4月6日、新入生を対象にフレッシュマンセミナー、クラブ体験を開催しました。午前中は、学科ごとにフレッシュマンセミナーを実施。フレッシュマンセミナーは、新入生がスムーズに大学生活に馴染めるよう、同級生はもちろん上級生や先生と交流する機会を設けることが目的です。ユニソン会館大ホールにて全体説明が行われたのち、学科ごとに分かれレクリエーションがスタートしました。英語英文学科は、ポスターセッション形式で英語で自己紹介をしました。他の新入生の紹介を聞くことで、新たな友人についても深く知る機会となりました。国際日本文化学科では、複数のテーブルに教員や上級生が待機し、新入生が「授業」「アルバイト」など興味関心のあるテーブルに移動し、自由にコミュニケーションをとる方式で開催しました。生活環境学科では、上級生が新入生を教員研

究室やキャンパス内を案内し、交流を深めました。心理学科では、クラス単位でサイコロを振って出た目のお題で自己紹介したり、教員の待ち受けるポイントを回ってゲームやクイズをして楽しみました。こども教育学科は学内や教員にまつわる「ウルトラ○×クイズ」や「共通点探しゲーム」を行い、2023年4月に開設された社会情報課程の一期生たちは、「教員攻略のツボは好きなモノ・コト情報!」をキャッチフレーズに4人程度のグループで教員研究室を回り、情報を持ち帰り交流するなど、学科ごとに趣向を凝らし交流を深めました。午後からは、クラブの学生が主体となって新入生にクラブの紹介・勧誘を行いました。ユニソン会館を会場に、ランチを食べながら賑やかなクラブ体験となりました。



## 学生会執行部がラジオ番組に出演

3月3日放送のKBS京都ラジオ「妹尾和夫のパラダイスKyoto」に本学の学生会執行部が出演しました。本学の交通安全ボランティアチーム「ガーマ FrieND」と下鴨警察署による交通安全啓発活動の取り組みが紹介され、今年4月1日から義務化される自転車利用者のヘルメットの着用について呼びかけをおこないました。



## 「THE 日本大学ランキング 2023」にランクイン

3月23日に「THE日本大学ランキング 2023」が発表されました。本学は国際性分野で関西の国公立大学の中で第11位、女子大学で2位、京都の女子大学で1位にランクインしました。



## 室内管弦楽部が定期演奏会を開催

3月26日、室内管弦楽部の定期演奏会が本学にて開催されました。新型コロナウイルスの影響で思うように活動が出来ない日々が続いていましたが、今回久々に定期演奏会を開催することができました。卒業生やご家族などをはじめ約70名が集まりました。



## お茶の水女子大学と文理融合データサイエンス教育に関する覚書を締結

本学は4月6日にお茶の水女子大学と文理融合データサイエンス教育に関する覚書を締結し、2023年度からお茶の水女子大学の教材を活用したデータサイエンス教育を開始しています。共通教育『情報活用プログラム』内の「AIとデータサイエンス入門」の授業、社会情報課程の基礎科目「AIとデータサイエンス」「プログラミング実践」などの科目で利用しています。お茶の水女子大学は既に都内の女子大学と同様の覚書を交わしており、本学は4大学目、関西の大学では初の締結となります。



## キャリアフェスを初開催

キャリアセンター主催のキャリアイベント「キャリアフェス」が6月7日に行われました。このイベントは就職活動の早期化を背景に、模擬面接体験を通して自身の課題を明確にし、進路決定へのアクションを自ら起こすことを目的として初めて開催されました。参加した3年次生96名は学生は面接官役に対して自己紹介と自己PRを行いました。



## ガーマ FrieND 活動中！交通安全啓発活動を行いました

5月13日に本学の交通安全ボランティアチーム「ガーマ FrieND」と下鴨警察署が、洛北阪急スクエアにおいて交通安全啓発活動を実施しました。2023年4月1日から義務化された自転車利用者へのヘルメットの着用について来場者に呼びかけました。



## 神田女学園中高一と高大連携に係る合意書を取り交わしました

本学と神田女学園中学校高等学校は、6月12日に高大連携に関する合意書を取り交わしました。本学が東京の高等学校と高大連携を結ぶのは、初めてとなります。合意書の取り交わしにあたり、学長・校長をはじめとした両校関係者で今後の高大連携内容の確認や意見交換を行いました。



## 全教職員・学生向けに生成AIの研修会を開催

ND教育センター、FD委員会、教務委員会が共催し「生成系AI(ChatGPT等)にどう向き合うか」と題し、NDホールにて研修会を5月17日、6月14日、7月5日に開催しました。講師のリー形式で全3回行われ、社会情報課程の北村教授、鎌田教授、神月ND教育センター長からそれぞれ「生成系AIとは何か?」「どのように向き合い、活用すべきか」についてお話がありました。



01 3年ぶりに大学紹介動画がリニューアル!

企画広報課

高校生に入学後の楽しい学生生活を想像していただけるよう、在学生が授業を受ける様子や、学内でのキャンパスの様子をより取り入れました。また、大学周辺の環境やアクセス紹介のために、北山エリアでの撮影も行いました。右記二次元バーコードより、リニューアルした大学紹介動画をぜひご覧ください。



02 イマーjonsスペースイベント参加者募集中

国際教育課

ユージニア館2階のイマーjonsスペース(i-Space)では、昼休みや放課後に語学や国際交流に関するイベントを毎日行っています。

- 英語でのイベント(ランチタイムチャット、ヨガレッスンなど)
- 外国人留学生の交流会“SAWAKAI”(日本人学生も参加可)
- TOEICスコアアップに向けた勉強会



イマーjonsスペース  
公式Instagram  
https://www.instagram.com/knduimmersionospace/



イマーjonsスペース  
公式サイト  
https://www.notredame.ac.jp/i-space/index.html



その他、新たなイベントを計画中です。公式サイト・Instagramや学内掲示にてお知らせします。英語に自信がなくてもぜひお気軽にお越しください!

03 学習アドバイジング・教職課程支援のご案内

ND教育センター事務局

ND教育センターでは、文章作成の基礎などの学習アドバイジング、教職課程履修者への支援を行っています。

■ 文章作成アドバイジング

学習相談

文章作成の基礎に関する相談を、ND教育センター事務局で受け付けています。

オンライン講座

文章作成の基礎づくり

manabaで「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身に付けていきます。

■ 教職課程支援

教職課程に関する相談や、教員採用試験に関するガイダンス・説明会や対策講座、教職大学院や教師塾などの案内を行っています。



04 2023年度科研費採択について

研究推進課

2023年度の科学研究費助成事業(科研費)に本学の教員が「研究代表者」として申請した研究が2件採択され、継続研究を含め本学教員が研究代表者の研究課題は計26件となりました。このほか、本学の教員が「研究分担者」となっている研究課題が25件あります(2023年7月現在)。

所属・職名	研究代表者氏名	研究種目	研究課題名
国際日本文化学 科教授	鷺見 朗子	基盤研究(C)	百一夜物語におけるミサンドリー:「王子と七人の大臣の物語」のジェンダー論的分析
こども教育学 科准教授	古庵 晶子	基盤研究(C)	読譜視線計測に基づく演奏ミスの改善-高齢者ピアノ学習を中心として-

スケジュール

SCHEDULE

2023年 9月 2024年 3月

本学のイベントは公式サイト上でもご確認ください。



- 在 在学生
- 卒 卒業生
- 教 教職員
- 保 保証人(保護者)
- 一 一般

2023年9月2日(土) 9月30日(土)  
10月14日(土) 11月18日(土)

在 卒 教 保 一

DXリカレント講座(全4回)

時間/各回 14:00~16:00(受付開始 13:00~)  
場所/ユージニア館3階・NDホール  
受講料/1回あたり500円(受講日当日に徴収)  
定員/100名(1回あたり)  
申込受付期間/2023年7月25日~2023年11月11日  
※申込受付期間を延長する場合があります



2023年10月15日(日)

一 (高校生)

英語英文学科主催  
高校生英語スピーチコンテスト

時間/10:00~  
場所/京都ノートルダム女子大学  
出場者/入賞者12名程度



2023年11月26日(日)

在 卒 教 保 一

公開講座 「コスチュームデザインの世界  
-装いの心理的機能とその効果に着目して-

時間/14:00~16:00(開場 13:30~)  
場所/ユージニア館3階・NDホール



※参加申込方法等の詳細は公式サイトにて公開予定です

2024年3月9日(土)

在 教 保

卒業式・学位授与式

時間/10:00~(予定)  
場所/ユニソン会館大ホール  
お問い合わせ/総務課  
TEL.075-706-3700



その他のスケジュール

- 9/25:後期授業開始日
- 12/27-1/5:事務取扱休止
- 1/29:後期授業最終日
- 1/31-2/7:定期試験期間

2023年9月23日(土)

在 教 保

ND育友会教育懇談会

時間/13:00~  
場所/ユージニア館3階大講義室  
お問い合わせ/ND育友会事務局  
ikuyukai@ml.notredame.ac.jp  
TEL.075-706-3700  
※保護者会は2023年4月より「ND育友会」に名称変更しました



2023年10月28日(土) 29日(日)

在 卒 教 保 一

2023 ND祭

時間/10:00~17:00(予定)  
場所/京都ノートルダム女子大学  
テーマ/「結花結実~心を結ぶ、笑顔の花~」  
お問い合わせ/ND祭実行委員会 ND\_festival@ml.notredame.ac.jp



2023年12月19日(火)

在 教

ノートルダムクリスマス

時間/14:00~  
場所/ユニソン会館大ホール  
お問い合わせ/学校法人ノートルダム女学院  
法人本部事務局  
TEL.075-723-1072 notre-houjin@ml.notredame.ac.jp

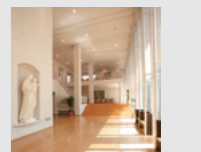


2024年3月21日(木) ~ 22日(金)

在

定期健康診断

受付時間/9:00~15:00  
場所/本学キャンパス内  
お問い合わせ/保健室  
TEL.075-706-3741



編集後記

▶2023年4月から、本学の新たな学びとなる「社会情報課程」がスタートしました。新入生は早速学外に飛び出して学びを深めています(詳細は巻頭ページの「ND VOICE」参照)。本学では初となる学部等連係課程制度による学びスタイルは、「社会情報」という学問にとってもマッチしていると感じています。これからも学生達の活動を追っていききたいと思います。(椀)

▶女子大学に「存在意義ある?」とか「オワコン」などと言っている昨今の報道やネット記事の中には首をかしげたくなるものもあります。「男性優先」がまだ至る所に埋め込まれたジェンダーギャップ指数146か国中125位の日本で、女子大学はその意識にとらわれず成長できる貴重な場。共学大学に真似ができるか、と言いたい。言わないけど。(祭)

編集担当: 戦略企画室 企画広報課

京都ノートルダム女子大学 大学報 2023年9月15日

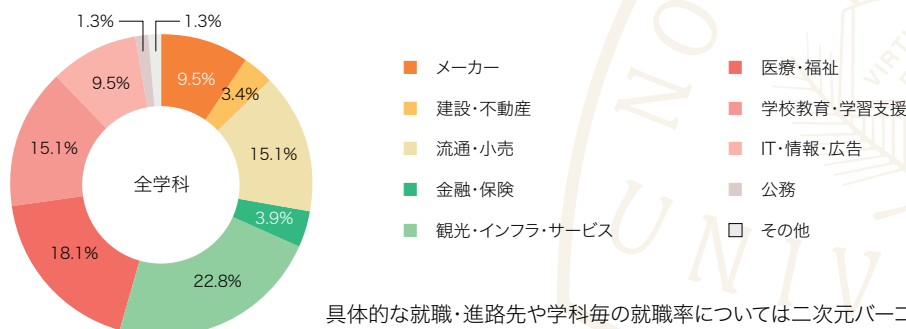
編集・発行/ 京都ノートルダム女子大学 戦略企画室 企画広報課  
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地  
URL: https://www.notredame.ac.jp  
E-mail: kikaku-koho@notredame.ac.jp  
制作/ 株式会社WAVE

NDキャンパス通信 Vol.19

本誌は京都ノートルダム女子大学保護者会の資金援助を一部受けています。  
※掲載している情報は制作時点(2023年8月下旬)のものです。

## 2022年度卒業生 就職・進路実績

2022年度卒業生の最終就職決定率は96.7%と、高い水準を維持することができました。(2023年5月1日現在)



具体的な就職・進路先や学科毎の就職率については二次元バーコードからご確認くださいませ。



## 京都ノートルダム女子大学への寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来、多くの皆さまからのご支援により支えられ、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成を行って参りました。しかし、大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、優れた教育を学生へ提供し続けるために、教育活動や奨学金の強化等が不可欠となっています。

本学は2021年に創立60周年を迎えることができました。日頃より京都ノートルダム女子大学を応援していただいている皆さまに、教育充実を目的とした募金のご支援を賜り、皆さまとともに京都ノートルダム女子大学のさらなる発展をめざして進んで参りたいと思っております。何卒ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学  
学長 中村 久美

### ■ お申込み方法



#### I: 銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。

#### II: インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Payeasy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれかが便利な方法を選択してご寄付いただけます。

#### III: 古本募金

皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額をご寄付いただく取り組みです。

#### IV: ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取り組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。

## Present

I: 銀行振込によるご寄付、II: インターネット募金による寄付を5000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

- A: ND祭(秋開催)で使用出来るチケット
- B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ、NDクリスマスカード送付(12月)

※領収書を送付する際に、返信用書類(メールもしくはFAX)を同封いたしますので、そちらでご希望の品物(AまたはB)をお選びください。

寄付金に関する  
お問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課  
e-mail: accounting@ml.notredame.ac.jp TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707